詐欺師や愉快犯についてＨＰで出しているが、書けば書くほど気が滅入る。あまりにも低次元であるからだ。すべてに目を通せば、大ウソつきであることがわかる。センセーショナルなことを書き、人を騙す。こういう卑劣な人間を相手に文章を書いていると情けなくなる。もうやめたいが、佐伯一家のために、真実を書くべきと思う。

佐伯や米子の無念は晴らさなければならない。いやなことだが続けてみよう。しかし、今回出版する本には詳しく書かない。歴史に残る本の品位が落ちるからだ。落合氏やその背後にいるＨＰに顔を出している輩は、オレオレ詐欺と同じことをしている。無垢な人々を洗脳し、うまくすれば金を手にできると考えているのかもしれない。また、今まで絵を売ってだまし取った相手に対して、本物だと主張し続けなければ、金を返さなければならなくなる、そういうところだろう。事実、明子は相当数の贋作を売りさばいている。買った人間は鑑定もせず、大金を支払ってしまった。山甚は億単位の金をだまし取られた。山甚はそれをパリ日記の編集者に見てほしいと言ってきた。編集者は武蔵野美大の油絵学科卒である程度絵を見る力はあると思う。彼の言うには一点もまともなものはなかった。つまり絵心のない、どうしょうもない別人格のへたくその描いた絵であった。へたくそな絵であることは、裁判で落合氏は認めている。それでもいろいろ反論し続ける。まあ反論し続けなければ、巨額のお金を請求されることになるからしかたがないのかもしれない。